

【薩摩瀬地区】(1/2)

区分		みなさんの思い、意見の概要
避難対策	避難場所	<ul style="list-style-type: none"> ・ 確実な避難が大事。いつ避難するか？どこに避難するか？ → 早めに避難できる体制を町でも考えるが、市も示してほしい。 ・ 命を守るためにはどうするか？ ・ 次に起こった時の避難方法（いつ、どこへ）を考えておく必要がある。 ・ 『まさか』で逃げ遅れた人がいる。
	避難誘導 要支援者対策	<ul style="list-style-type: none"> ・ 避難困難者をどう支援するかが問題。 ・ 逃げ遅れた人は放送が聞こえなかったのではないか。防災無線が聞こえなければ、情報を得られない。 ・ 新しいハザードマップを見ると、20m浸かることになっている。 ・ 浸水マップを作りました、配りましたで終わってはいけない。
生活再建 住まい再建	住まい再建 生業再建 復興まちづくり	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自宅は全壊状態だが、判定は大規模半壊だった。周りの家はすべて全壊判定。浸水深 4 cmの差で罹災判定に差が出る。市役所から言葉の暴力（「手加減はできません」という発言）を受けた。 → 明確な基準を。もっと寄り添って考えてほしい。 ・ 庭に堆積土砂などがまだ残っているが、一人では何もできない。市は“終わった感”がある。 ・ 下薩摩瀬は、“ゴーストタウン”になっている。14 軒あったが、まず戻ってきたのは 2～3 軒。その後 10 軒程度にまで戻り、明かりもボツボツ。 ・ この土地に戻って来て大丈夫か、不安がある。 ・ 自宅横へ新築している時に被害に遭った。治水の協議会で地区の嵩上げについての話も出ていると思うが、地区としての治水方策がわからないと、3階建にするか？等、どうすべきか考えられない。住宅ローンの問題（土地購入から2年以内でない控除対象にならない）等もある。 ・ 嵩上げするのもしないのか、わからずに再建している家もある。 → 早く方針を示してほしい。建てたくても建てられない。 ・ 出水期の 7 月、8 月の様子を見て、秋口から建築工事にかかることを考えている人もいる。 ・ 工事ができる人は保険金がある人で、お金がないと工事ができない。現実は厳しい。 ・ 浸水が 10 cmであっても断熱材の毛細管現象で水を吸い上げている。建材の規格も 1.8mが基準になり、取り換えるにも費用が掛かる。基準（1m未満＝半壊、1m以上 1.8m未満＝大規模半壊、1.8 m以上＝全壊）の見直しが必要ではないか。 ・ 昔から、津波のあるところに家を建てる。川の近くに家を建てる。がけ崩れが起きそうなところに家を建てる。人は水の無い所では生活できない。 → 水害がある地域に住むには、ある程度『覚悟』が必要であり、各個人での対策も必要だ。 ・ 既に再建済みの人もいるので、嵩上げや移転の際には漏れないようにする必要がある。 ・ 一軒でも反対があれば、嵩上げなどの計画が進められない。 ・ 色々な所を見てここが良いと選んで住んでいる。個々の安全性を高められれば良いと思う。

【薩摩瀬地区】(2/2)

生活再建 住まい再建	地域コミュニ ティ 地区への想い	<ul style="list-style-type: none"> • 宝来町は町内の活動ができないので、自治会館を公費解体して再建することに決めたが、町内会には再建費用がない。費用を作るにしても何かと手続きが面倒。手続きを簡素化してほしい。 • 他の人との交流は心地よい。 • 水は怖い。だが住みたいと思う。 • 現在、市外に住んでいる人も多く、どう考えているのか把握できない。 • 他所から来たので最初はよそ者扱いされたが、次第に住みやすい地になった。文字どおり『お人よし』の所でふるさとだ。 • ここに住まざるを得ない人も多い。 →ご先祖様、金銭面など。
治水	治水	<ul style="list-style-type: none"> • 県や市では、水害の検証がなされていない。 →検証結果を教えてください。 • 水害はまた来ると皆が思っている。 • 河床掘削した土で盛土できないか？ • 球磨川の掘削が第一である。しかしながら、万江川、御溝川を見たが対策が取られていない。溜まった分を取り除いているだけ。支川の対策も必要だ。 • 水害ありきではなく、水害が起こらないようにすべきではないか。球磨川の流量を減らしてはどうか？（2千トン減らす必要がある） • 球磨川の流れを良くすることが水害対策になるのではないか。 →狭窄部を拡げる。那良口は『岩』なので削れないと言われるが、手っ取り早い解決方法だと思う。
その他	被災前の人吉	<ul style="list-style-type: none"> • 被災前の人吉市の姿を見たい。
	次回日程	<ul style="list-style-type: none"> • 4月29日（祝）午前 or 午後 • リモート、Zoom等を使うことも考えてはどうか。

【左岸地区】(1/2)

区分		みなさんの思い、意見の概要
避難対策	情報発信	<ul style="list-style-type: none"> ・今次水害では、防災無線での情報発信が遅れたのでは？急に水位が上がったため、避難が遅れ、泳いで逃げた。(矢黒町) →繰り返しのなっても良いので、情報を何度もアナウンスして欲しい。いろいろな形での情報発信が必要。 ・前は雨音でマイクの音声は聞こえなかった。 →市から防災無線戸別受信機を全世帯に配布予定 (R3 年度内) →近所のお互いの声のかけ合いも必要。
	避難誘導	<ul style="list-style-type: none"> ・今回は水の出が早かった。油断が一番禁物。 ・次の出水期の対応について考えておく必要がある。 ・今次水害によって住民の危機意識は向上した。 ・自主防災組織と事前の話し合いが必要。 ・自主防災組織の高齢化が問題。メンバーは消防団のOBが中心。 ・出水期前に防災訓練を予定している。(西間下町) ・早めの避難が必要。 ・夜間に避難が必要な場合はどうするか？
	避難場所	<ul style="list-style-type: none"> ・どこに逃げるか？町内や家族で話し合っておく。 →避難場所を見極めること、再整理が必要。情報をどのように判断するか？ →1000年に1度の豪雨でも避難ができる場所をつくるべき。
避難所	福祉避難所	<ul style="list-style-type: none"> ・精神疾患の子どもがいるため、避難所に行けなかった。保健センターの個室を開けていただけだが、7/19に閉鎖になることを当日知らされ、避難所へ行くことを促された。福祉避難所を一箇所開けてもらえることになったが、次の日どうなるかわからない状態であり、避難先を点々とする中で子どもの不安が大きくなった。その後、近くの一棟貸しをしているところを見つけ、そこに行くことにした。避難所に行けないことで、宿泊等に30万円以上の費用がかかった。後日県に確認したところ、被災2日後には避難所で要配慮者の希望を取るよう通知していたとのことだが、市の担当者からは正確な情報がもらえなかった。 →次に災害が起きたとき、同じような状況が起こっては困る。 →要配慮者へのケアをしっかりとしてほしい。精神疾患は見た目ではわからないため、周りの方に認知されにくい。
	ペットの避難	<ul style="list-style-type: none"> ・ペットがいるため避難しないという方がいたため、公民館はペットの受け入れ可にして、避難を促した。(西間下町) →地域で話し合い、ルールを決めておくことが必要。
	自主避難所	<ul style="list-style-type: none"> ・下戸越公民館は1m程浸水した。今後の自主避難所をどうするか、検討する必要がある。 →災害の規模で避難先をレベル分けしたいが、判断が難しい。 →民間施設との避難場所としての事前協定などもできると良い。

【左岸地区】(2/2)

生活再建	各町の状況	<p><矢黒町></p> <ul style="list-style-type: none"> ・現地再建を希望する方が多いが、いつ頃再建できるか？ ・堤防沿いで高齢一人暮らしの方が再建できるか心配。 ・3世帯はリフォーム済。10世帯の動向はわからない。 <p><下戸越町></p> <ul style="list-style-type: none"> ・5世帯は現地再建。2世帯の状況はわからない。 <p><西間下町></p> <ul style="list-style-type: none"> ・現地再建の要望が多い。 ・どこに避難されたかわからない方もいるが、仮設団地でボランティアをする際に把握できる面がある。
	再建のビジョン、計画等	<ul style="list-style-type: none"> ・いつ頃、どうやって再建できるかの見通しがほしい。 ・市の計画を早めに住民に知らせてほしい。懇談会をただ開催するのではなく、市の方針をわかりやすく知らせてほしい。 ・災害公営住宅はできるのかなど、具体的な情報を教えてほしい。 ・堤防が壊れたままの状態では、不安で家を建てる計画はできない。(堤防ができれば必ずしも安全ということではないが…) →市のビジョンを見える化してほしい。
	再建が長引く影響(仮設暮らし)	<ul style="list-style-type: none"> ・再建が長引くと仮設暮らしも長引く。 ・多世代同居世帯は、仮設住宅などで同じ場所に避難することが難しく、一緒に暮らすことができない。家族がばらばらになっている。 ・建設型の仮設住宅とみなし仮設で入居者のフォローに格差があるのでは？建設型の方が優遇されていると聞く。 ・支え合いセンターで被災者のニーズ調査等を実施しているが、みなし仮設の方については個人情報の問題で追えない部分がある。
	被災者への配慮	<ul style="list-style-type: none"> ・被災者の方が、「仮設団地に入れて良かったね」と言われることがあるが、それが辛いと言われていた。本当は自宅に住みたいはず。
	なりわい再建	<ul style="list-style-type: none"> ・家屋の被害はないが、田畑、水路の被害があり、作付けできず困っている。(鹿目町)
治水	治水	<ul style="list-style-type: none"> ・河川掘削が進んでいるが、どの程度効果があるのか知りたい。水は溢れるのか？再建しても大丈夫なのか？実際の効果に関する情報が欲しい。 ・避難の時間をかせぐため、ダムの水位を下げておいてもらえると良いのでは？
	災害リスク	<ul style="list-style-type: none"> ・今年も昨年と同じレベルの災害があるかもしれない。
その他	行政の備え	<ul style="list-style-type: none"> ・応急対応、復旧情報、復興方針などについて、正確な情報発信をしてほしい。 ・各課によって情報の出し方や対応が異なる場合がある。信頼のおける体制づくりをしてほしい。
	次回日程	<ul style="list-style-type: none"> ・4月29日(祝)午前 or 午後

【中心市街地（九日町）】（1/2）

区分		みなさんの思い、意見の概要
街の賑わい	ひとを増やす	<ul style="list-style-type: none"> 賑わいづくりのためには、まちなかに「災害公営住宅」をつくってほしい。（意見多数） イスミの再オープンも歓迎だが、人がいなくなっているのではどうか。賑わいづくりでは住宅をもってくるのは賛成。 なりわい補助金で再建したいが、街に人がいない。 まちなかに空き地が増えている。今後良いまちづくりをしていければ。 市が市営住宅や店舗など、買い上げて建てたら良いと思う。
住宅再建		<ul style="list-style-type: none"> （仮設住宅住まいしていて）こちらに帰るか迷う。55年前も水害を経験。 熊本地震後の区画整理のテレビがあった。庭をつくったところ変更で道路になると。ビジョンや計画を早く知らせてほしい。再建始められない。（よそのように）また動いてと言われても困る。 できれば九日町に自宅を建てたいが、高齢で困難。建てるとしても土地のかさ上げをお願いする。 （昭和40年水害を経験した）住宅再建で家に手間かけなくていいが、1階はピロティにしたい。 公費解体の書類を準備済み。今度の住宅は1階はいやだ。とりあえずでもいいから2階、3階がいい。
なりわい 今後のまち づくり	国道445号 線の整備	<ul style="list-style-type: none"> 2週間前に子ども食堂を再オープンしたが、国道445号線の今後の計画が知りたい。 国土交通省の説明がない。国道445をどうするのか。 他の町内の女性と女性中心でまちづくりを話し始めた。商店街にいま車が中心になっている。国道を市道に格下げして、道路幅を狭くして歩道を広げて“歩いて楽しいまち”にしたい。人が歩いて商店街につながる。
	商業・経済	<ul style="list-style-type: none"> 楽器店を経営してきた。この町に愛着がある。 2月4日に店舗を再オープンさせた。地域のためでもあるが自分たちのためでもある。川の流れがこちらに向いているので不安。 商売再開していいのかわからない。元は専門店が豊富に建ち並んでいた。

【中心市街地（九日町）】（2/2）

避難方法	避難の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・民生委員の方が、2時間でやっと2名を避難させた。民生委員ひとりで見ている全員を避難させるのは無理。 ・2回目の放水の時、隣の住人の避難が無理だった。（家同士を結ぶ）非常階段を常備したり、避難経路や方法を地域で作らないと。共助が必要。 ・山田川の氾濫、すごいスピードだった。街の高層ビルに高齢者など連れて行くしか。 ・6月の出水期の予想は？どれくらいの雨が降るとか説明がないと。危険なのかどうか。 ・防災無線が全然聞こえなかった。身内からの電話で気づいた。445号線が川になっていた。隣の人に避難してきてと声掛けもできなかった。 ・初めて被災した。避難準備していたが遅れた。寝ずにずっといた。油断していた。無事でよかった。 ・5：30にダム放水のニュースあった。通常1時間後に人吉は増水するが、車をすぐ移動しようと考えたがすぐ増水してきた。 ・今度水が来たら、どこに避難していいかわからない。 ・どこのだれがだれをたすけるのか。
	避難所	<ul style="list-style-type: none"> ・この地区の避難所として商工会議所は無理であった。避難所再登録された東小に避難したが毛布も何もない。朝食・昼食の段取り、市はしていない。
地球温暖化防止宣言！	自然に優しい人吉	<ul style="list-style-type: none"> ・（市長が来ていたから言いたい）昨今の豪雨被害は気候変動、地球温暖化が原因なのは明らか。それに対し人吉は他の市町と共同で「地球温暖化防止宣言都市」を目指すべき。
球磨川治水対策	土砂撤去	<ul style="list-style-type: none"> ・今度の6月の雨が心配、堆積している土砂をどうするのか？ ・土砂の撤去を。いま堆積土砂を洪水の原因となる合流点に積んでいる。どうなのか？ ・漁業との兼ね合いがあるのだろうが、どれくらい土砂を撤去するか ・ダムのヘドロが問題。昭和40年水害の時はヘドロなかった。
その他	参加に関して	<ul style="list-style-type: none"> ・この会議に参加できない人がいると思う。聞き取りが必要では？ ⇒メンバーは固定していないし、参加の敷居を低くしている。友人知人へ参加声掛けもお願いしたい ・紺屋町と復興会議をしている。この会議とのすみわけをどうするか。
	次回日程	4月26日（月）18時～ 東小

【中心市街地（七日町・五日町・二日町）】（1/2）

区分		みなさんの思い、意見の概要
避難対策	避難路・避難場所	<ul style="list-style-type: none"> ・今回の災害は今までに経験のない大きな被害だった。今のような状況だと、何もできないうちにまた出水期がくる。まずは、避難をどうするかでも立てて置く必要がある。大きなエリアだと、ホテルなどを避難場所として交渉していく必要がある。 ・三浦ビジネスホテルなど町内に高いビルが何軒かある。またマンションもいくつかあるので、市で協定して避難ビルにしてはどうか。 ・もうすぐ7月4日が来る。「逃げる方法」を考えておく必要がある。ここは「人吉高校」が避難所となったが、だいぶ遠くなった。大丈夫なのか。 ・今回はまず、町内会館に逃げたが、そこで膝まで浸かって東小まで移動した。東小も校区全体の人が避難できるスペースはないし、コロナで避難人数も少なくなる。また、東小は、車いすなど体の不自由な人は上がれない。（以前は商工会議所でエレベータがあった。） ・先日ハザードマップが配られたが、今後もこのようなことがあると住む場所をどうすべきか考えないといけない。また、すぐ出水期を迎えるので、今年どうすべきかを早く市が説明してほしい。 ・防災無線は全然聞こえなかった。復興計画で、各戸に防災無線受信機を配るといのが具体的にいつなのか。 →（担当者の説明）今回被災した世帯のうち、自宅再建をした方から優先して出水期までの配布予定。その後、今年度中に全戸に、優先度をつけながら順次配布予定である。
生活再建	町内の被災状況	<ul style="list-style-type: none"> ・二日町は町内の半壊以上は99%である。浸水後町内の戸数は15%減った。 ・七日町では町内の85%が床上・床下浸水となった。軽トラで災害ごみの運搬を50往復以上やった。ボランティアにも助けられた。
	住まい再建	<ul style="list-style-type: none"> ・建築関係の職人が少ないので、被災してすぐのころは日当3万と言われていた。今は1.6万くらいにさがったので、修復を頼むことができた。 ・周辺で唯一全壊だった。周りより自分の宅地が低い場所にある。公的に盛土してもらえないだろうか。 ・復興はお金に余裕があるところが早い。保険が大切である。保険に入っていて新築できたひとが多い。
	支援制度	<ul style="list-style-type: none"> ・川沿いには店舗が多かったが、多くの方が再建をどうするか決められない。なりわい補助金も反応がなく対応が遅すぎる。（別途、市で対応） ・全壊の義援金（再建支援金）の期間はR5,6までの3年間と聞いているが、もっと伸ばせないか。それまでに決められない。今の場所で再建するか、移転するかで家族で話し合っているが、夫は今の実家再建を望んでいるようだが、私はまた浸かる場所再建はしたくない。公的な盛土女性や代替地をあっせんしてくれる等はないのか。

【中心市街地（七日町・五日町・二日町）】（2/2）

地域コミュニティの再生・維持	商店街の復活	<ul style="list-style-type: none"> ・町内で買い物をする場所がなくなった。 ・川沿いに商売人が多いが、再生が厳しい。例えば建物はほぼ大丈夫だがエレベーターが使えない、住宅については、支援があるが、店舗の再建支援が少ない。 ・写真店をやっていた。鉄筋の4階建てで一部損壊だった。再評価を申し立てたら準半壊になった。順半壊でも支援は少なく、店舗の支援「なりわい補助金」は、通常75%だが、住宅併用だと50%しかない。12月に申し込んでいるが、まだ対応してくれていない。店舗の修復費用は負担が大きい。 ・写真店なので、コロナの影響もあり結婚式の撮影が激減し、今後の商売の在り方を考えたい。
	計画づくりを早く	<ul style="list-style-type: none"> ・土地利用をどのようにするつもりなのか、解体すべきところが進んでいない。スピード感がない。今のペースでいくと、どんどん人が街から離れていく一方だ。
	公民館の再建	<ul style="list-style-type: none"> ・若宮神社を集会所に使っていたが修復の支援をお願いしているがまだ、取り掛かっておらず、庁内の会合もできなくなっている。
治水	治水	<ul style="list-style-type: none"> ・中心市街地や川沿いに家を持ちたいと考えている人は多いが、今のままだと怖くて再建できない。河床掘削は、今年の出水期までにやるといっていたが、今のペースで終わるのか。 ・球磨川の河床も以前と比べだいぶ高くなっている。長年かけて土砂の堆積が積もっているはずだ。いつまでに何をやるかを早く示してもらって、中心市街地に家を案して建てられるようにすべきだ。

【中心市街地（大工町・鍛冶屋町）】（1/2）

区分		みなさんの思い、意見の概要
避難対策	避難誘導 避難訓練	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者、一人暮らし高齢者が多い。町内会で災害に関する会合を開き、皆で避難の方法やルートを再確認したい。 ・民生児童委員が避難を促してもなかなか避難されない方もいた。 ・避難は、最初に町内会館に避難するよう申し合わせていたのがためになった。最初から東小学校に避難してしまうと、誰がどこに行ったかわからなくなる。 ・キーパーソンを立てて誰が誰を見るか確認していた。日頃のコミュニティの大切さを実感した。 ・災害に対する会合を実施し、再確認をしたい。 ・周囲の見本になるような鍛冶屋町モデルをつくりたい。 ・町内会で避難訓練をしたい。 <ul style="list-style-type: none"> →雨の日を実施する、高齢者や子どもを連れて歩く、車で搬送するなど、実際の条件に近い形で実施した方が良いのでは。
	避難場所	<ul style="list-style-type: none"> ・町内に垂直避難できる高い建物がない。（鍛冶屋町） <ul style="list-style-type: none"> →九州電力の鍛冶屋社宅はどうか？相談してみてもは。
生活再建	まちの状況	<ul style="list-style-type: none"> ・解体が進み、空き地がずいぶん増えた。空き家も多い。 ・公費解体が遅れ、街並みがどうなるのか、戻ってくる方がいればどんな形で生活再建をされるのか、この先の様子が見えない。 ・仮設住宅（石野、村山など）に入られた方がどういう気持ちでいるのかわからない。会う機会もなかなかない。 ・解体等で隣同士のトラブルが二次災害的に増えている。
	再建の方針、 方策、支援等	<ul style="list-style-type: none"> ・復興計画等では市の発展を言われるが、まずは皆足元のことでは迷っている。帰りたいと思ったが帰らない、帰らないと思ったが帰るといような迷いの1～2年。ダムや遊水地ができるにしてもできないにしても翻弄される。 <ul style="list-style-type: none"> →住民の意見は町内単位に集約していかないと、方向性が見えない。 →施策の方向性が見えないと、住民はつらい。 ・生活再建に向かえるよう、住民の足元が整うような環境づくりをしてほしい。 ・高齢者の持ち家の解体跡地等の対応について、行政のサポートがあると大分違うのでは。 ・ハード面の施策がどうなるのか心配。 ・水害保険の加入の有無など経済的な問題や、早く再建したい人、悩んでいる人などで再建スピードに差がある。 ・リバースモーゲージなどの制度は活用できると良いが、十分に知られていないのでは？ <ul style="list-style-type: none"> →民生委員がリバースモーゲージのパンフレットを持って説明して回っているが、理解してもらいにくい。
地域コミュニティの再生・維持	町内会	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度、住民・世帯を再調査中。町会で世帯台帳の作成を進めている。（鍛冶屋町） <ul style="list-style-type: none"> →誰がどこに住んでいるかわからないと、まちづくりはできない。 ・昔に比べ共助の精神が希薄になった。普段の生活でも災害時でも、町内会に入っていないなくても手助けをしてもらえる世の中になった。 <ul style="list-style-type: none"> →共助の精神を養うと、いろんなことが見えてくる。 ・大工町は35世帯から24世帯（48名）に減少した。このままいくと町内会の存続が心配。 ・町内会はやっぱり大事。今回も、被災後に炊き出しをした。 ・仮設住宅に入られた方の行き先が不明。人づてに知るしかない。

【中心市街地（大工町・鍛冶屋町）】（2/2）

復興まちづくり	進め方	<ul style="list-style-type: none"> ・町内会毎に話し合いの場を持つ必要がある。まちづくりの一步として、住民の顔が見える範囲で、住民が中心になり考えていくべき。小さい単位で考えていくと、柱が見えてくる。 ・行政任せでなく、住民が声を出す必要がある。 ・みんなでまち歩きをして現地の状況を確認したい。
	街並み再生	<ul style="list-style-type: none"> ・再建が進む前に景観条例のアピールをしていくことも必要。
	中心市街地のまちづくり	<ul style="list-style-type: none"> ・（いろんな考え方があるが）中心市街地が賑わっていないと人吉の発展は難しいのでは。 ・みなさんまちなかに戻りたいと思っている。「帰りたいまち」 ・九日町や紺屋町と一体的に中心市街地の再生、まちづくりを考えたい。 ・解体が進み空き地が増えているが、有効活用につなげられると良い。 ・これだけ空き地が増えているため、災害公営住宅はまちなかにつくってはどうか。 ・高齢者が多いため、歩いて行ける範囲で生活が成り立つよう低層部に買い物ができる店や病院もあると、生活しやすい。 ・大工町は狭い路地が多い。 ・空いたところに鍛冶屋町に移って来てもらえるようアピールしては？鍛冶屋町のチャージングポイントをPRしたい。（例）買い物する場所、病院、飲み屋に近い。
その他	その他	<ul style="list-style-type: none"> ・鍛冶屋町は水が引くのが当日中と早かったので、復旧にも比較的早く取り掛かれた。 ・行政には空き家対策をお願いしたい。（町内会で以前から気になっていたところは公費解体される予定）
	次回日程	<ul style="list-style-type: none"> ・4月26日（月）18:00 ※4月22日（木）が総会（鍛冶屋町） ※町内会の情報伝達方法は回覧板。＋声掛けで参加の呼びかけ。

【中心市街地（上新町・下新町・鶴田町・北泉田町・南泉田町）】

区分		みなさんの思い、意見の概要
避難対策	情報伝達	<ul style="list-style-type: none"> 油断していたことによって、今回避難が遅れたと思う。情報公開を行うべき。 →コミュニティ FMなどで情報を周知することで情報共有が円滑になるのではないか。
	自主防災組織	<ul style="list-style-type: none"> 被災後、防災部を正式に設立した。【上新町】 →自分だけでは避難しないように町内に呼びかけ、役員で分担して避難誘導に当たった。 →お寺に避難し、朝夜炊き出しを行った。日頃から炊き出し訓練も実施していた。 →阪神・淡路大震災を事例に餅つき大会等を実施し、地域の支えあいやコミュニティづくりを通して、防災に活かしている。
	避難場所	<ul style="list-style-type: none"> 統一した避難場所が必要である。安否確認に時間を有した。 西小学校と球磨工業高校に避難した。 中小企業大学校に車で避難した。【鶴田町】 屋上等への避難も検討すべきである。
	避難経路	<ul style="list-style-type: none"> 住宅地の道路は狭いため、リアカー等で避難誘導を行った。 マンホールが外れている場所があった。 →基本は外れないはずである。確認が必要。
生活再建	住まい再建	<ul style="list-style-type: none"> 可能であれば、安全な場所で再建をしたいが、父は現地再建を希望しており、現在補修中である。 まちづくりの方向性について、聞きたい。 現在、32軒がみなし仮設に入り、住宅再建済み2軒、市外2軒（空き家）の状況である。【鶴田町】 29軒が床上浸水をした。【北泉田町】 37軒が被害に合い、8軒が床上浸水。3軒はそのまま、1軒が空き家の状況であり、空き家に関しては市に要望を出している。【南泉田町】 8割が全半壊の被害に合っている。自費解体で再建している世帯もある。【上新町】
治水	治水	<ul style="list-style-type: none"> バックウォーターで被害が大きくなった。 人吉市より上流での対策が必要ではないか。 国に県、市が情報公開（流速や現在の水深など）の要望を出してほしい。 できるだけ早く、治水対策の情報が欲しい。まちづくりの方向性が判断しづらい。 建設会社の木材が流され、洪水の原因になったのではないかと。私有地を国、県、市が買収すべき。 第3橋梁で十字ブロックがすべて流れた。除却は間に合うのか。 堤防がまっすぐに切れている。補修が必要
その他	要望	<ul style="list-style-type: none"> 人吉市復興計画の「復興の将来像(復興ビジョン)」の「球磨川と共に創る みんなが安心して住み続けられるまち」を「美しい球磨川と共に創る～」にしてほしい。 仮設住宅と駅などを結ぶ巡回バスを通してほしい。
	開催日	<ul style="list-style-type: none"> 土曜日の夕方は家族が集まったり、地区内の会合があるので、なかなか参加できない。
	連絡方法	<ul style="list-style-type: none"> LINE@を使用して、情報を周知してほしい。

【中心市街地地区（紺屋町）】（1/2）

区分		みなさんの思い、意見の概要
まちなかの再生	まちなか駐車場	・個人の駐車場しかない→まちなか駐車場があるとよい。
	公園	・公園がない。小さな公園くらい。コンテナマルシェは、子供が集まっている。
	まちなか居住、公営住宅	・高齢者が多く高齢化している。 ・紺屋町に子どもがいない。少なくなった。 ・まちなかなのに限界集落みたい。これで紺屋町はいいのか。 →集合住宅つくって子育て世代を呼びたい。 ・まちなかに住む人を呼んでほしい。（公営住宅） ・災害公営住宅の下が店舗で、6F 建てにしてほしい。
	生業の再建	・紺屋町は約 280 軒あるが、半分はテナント。1F が店舗で上に住んでいる。 ・コロナ前から地価が下がっていた。いろんな店がないといけない。 ・住民の方は店を貸して、上に住んでいる方が多い。 ・事業をしていた人戻ってきてくれるか。2 代目がいるところは再建すると思うが。 ・モゾカタウンから店が戻ると良い。ベニスの街のようにしてはどうか。
住まいの再建	昔からの町割り	・間口が狭く、接道要件を満たさないところが多く、再建に課題がある。 ・道路付けを、区画整理などで良くしてほしい。 ・区画整理して、使いたい人に使ってもらう必要がある。
コミュニティのあり方	町内のコミュニティ	・広報誌が配れていない。まずは連絡網を再整理。 ・向こう両隣から情報を得る必要がある。 ・昔は紺屋町に 14 組あったが、今は人がいない。 ・集まる場がない。みんながどこに住んでいるかわからない。 ・コミュニティがなくなっている。 ・町内の収入がない。集まるにもお金も場もない。活動費用が確保できない。 ・コミュニティが薄くなっていたので、今回で少し回復した。 ・人に寄ってもらうこと自体が難しい状況である。
	公民館	・公民館は公費解体かどうか未定。法人化はまだしていない。
治水	中川原公園	・中川原公園は、山田川の出口をふさいでしまう。中川原公園の土砂撤去がされていない。 ・災害にあった人とそうでない人の温度差がある。
	山田川	・山田川の堤防の在り方や中川原など、方向が示されないとまちづくり考えられない。 ・山田川の水をスムーズに流す必要があるのではないかと。 ・山田川の護岸がくずれて、元に戻した。九日町側に圧力がかかっている。
	その他	・夜中、線状降水帯に入って、雨音が怖かった。 ・まんだら川は、きれいな水だが、手前は泥水で、発船場から水が来ていた。

【中心市街地地区（紺屋町）】（2/2）

避難対策	水害への慣れ	<ul style="list-style-type: none"> 紺屋町は毎年警報が出て、慣れている。→いかに危ないと伝えるかが重要。 昔のことがあって安心していた。 温度差があった。昔の水害は、今回より 2m低かった。当時水が出なかった。 昔から「ダン」と言われている場所があり、数段ある。大工町、は大丈夫という神話もあった。
	水位の上がり方	<ul style="list-style-type: none"> 山田川の水位の上がり方が今までとは違った。 当日 5 時半の水位で大丈夫と思った。油断して逃げ遅れ、自宅 2F で避難した。そこから状況を発信した。 6:50 に水が出ていた。隣に声かけし、そこにあったものを上に上げたか、天井まで水がきた。 水圧でシャッター曲がった。水位上がるのが早かった。 紺屋町会館側から水が来た。 屋根づたいに逃げた。市房ダムが放流した時に水位が上がる。 今まで水が上からなかった。孫が来てあわてて避難した。 11 時間浸かっていた。 上に避難して、ラフティングボートで救出された。 ピーク時にボートで救出され、ダイシンに避難した。 川を見る場所の状況で判断が変わる。
	情報伝達	<ul style="list-style-type: none"> 人吉市の危機管理ができていない。市からのアナウンス等が足りなかった。
	声かけ	<ul style="list-style-type: none"> 声かけするにも自分のことでいっぱい。 近くの数人に声かけして逃げた。自分のことを考えると声かけは難しい。
	早めの避難	<ul style="list-style-type: none"> 早めに避難したので自分の目で見えていなく、ピンと来ない。 5:30 に「避難してくれ」と消防団の声かけがあり、人吉高校まで行った。北泉田町に車を置いた。
	逃げ道、逃げ遅れ	<ul style="list-style-type: none"> 地域的に逃げ遅れると避難できない。そんな地形が紺屋町。 逃げ道がない。2つの川に挟まれている。 紺屋町や温泉町は何度も浸かっている。 浸水地域の指定。昔から浸かっていたところ。どんなまちづくりにしていくか。 次に浸かると立ち直れない。
	避難場所	<ul style="list-style-type: none"> まちなかに垂直避難できる場所が必要。 まちなかに避難する公園が必要。 公民館が上から 1mまで浸かった。 どこに逃げたらいいか。指定避難所は東小。 夜中の雨の音が怖かった。
	避難所での情報	<ul style="list-style-type: none"> 情報がない。避難所でもない。携帯が繋がらない。テレビ、ラジオもない。 避難した先で情報が取れなかった。避難所も何もなかった。
その他	検証	<ul style="list-style-type: none"> 検証をこの場でもしてほしい。 市房ダムの検証を含めて、もう少し分かりやすく示してほしい。 当時の状況の検証を自分達でもやっていくことが必要。
	情報	<ul style="list-style-type: none"> 情報が来ない。アンケートをしていることを周知してほしい。 ここに来ていない人にもアンケートで聞いてほしい。 途中段階でもよいので状況を教えてほしい。 情報が来ず不安。今の状況を知りたい。
	ボランティア情報	<ul style="list-style-type: none"> 避難後の片付けの際に、ボランティアがいなかった。1 週間～10 日経ってから情報が来た。 必死に自分達で片付けなどしたが、ボランティアが来なかった。

【麓・老神地区】

区分		みなさんの思い、意見の概要
避難対策	避難場所	<ul style="list-style-type: none"> どこに避難すればよいのか。保健センターまでの道が狭い、また胸川沿いなので、第一中学校を指定避難所に設定して欲しい。 災害時、胸川の橋を渡るのは難しい。胸川の東側の避難所を住民間で検討する必要がある。 自主避難所を検討する。 →町内ごとに寺社と協定を結び、自主避難所として活用する。(田町は既に東林寺にお願いしている)
	要支援者対策 避難誘導	<ul style="list-style-type: none"> 自分自身、早期避難の呼びかけなど、やれることがあったのではないか。 見守りが大事。仮暮らしをされている町内の住民がどこに住んでいるのか把握できていない。個人情報の観点から、市から住民の情報をもらうことができない。 発災の発見が遅れて逃げ遅れてしまう。 町内会長が災害対応について十分に理解していなかったため、避難の呼びかけなどが遅れた。また発災後の情報も住民に伝えられていない。 →会長の引継ぎが十分できていなかった。 →全町内会長には出水期までに防災ラジオを配布すべきである。 →会長が全てのことを出来ない。会長が被害を受けた場合、町内の他の住民のケアをすることができない。負担を軽減・分散する必要がある。(想定外の災害レベルであり、会長だけに対応を求めることはできない) →消防団が町内会長の引継ぎに同席して 町内会長宅の防災無線の設置など防災に関わる引継ぎを強化する必要がある。
防災	自主防災	<ul style="list-style-type: none"> 過去浸水したことがなかったので、自主防災組織を立ち上げていなかった(南寺町)。 道路を挟んで電気・水道のあったところとなかったところが明確に分かれた(田町)。住民間で、町内で防災の決まり事をあらかじめ考えておく必要がある。
生活再建	住まい再建	<ul style="list-style-type: none"> 被害の少なかった町内なので浸水した家屋の片付けが終わっていない住民もいる。周辺住民で片づけたケースもある。疲れて病気になった住民もいる。 公費解体の順番待ちの状況である。 →時期について一応環境課に確認して欲しい。時期がある程度分かるケースもある。
その他	他地区	<ul style="list-style-type: none"> 被害の大きかった町内(特に「新町」)の今後の心配である。
	情報発信	<ul style="list-style-type: none"> 住民が今後の再建やまちづくりに不安を感じている。復旧・復興の取組みの進捗状況を住民に伝えて欲しい。(例)具体的なスケジュールや事業内容 防災ラジオの全戸配布等、行政から住民にしっかり情報を下す必要がある。
	参加メンバー	<ul style="list-style-type: none"> 参加者数が少ないので、もっと多くの住民(若い世代をはじめ様々な住民)に参加して一緒に話し合っていきたい。 →口コミが最も効果的なので、日頃の住民との会話の中で参加を促していく。
	次回日程	4月26日(月)18時～ 東小

【青井地区（上青井町・中青井町）】

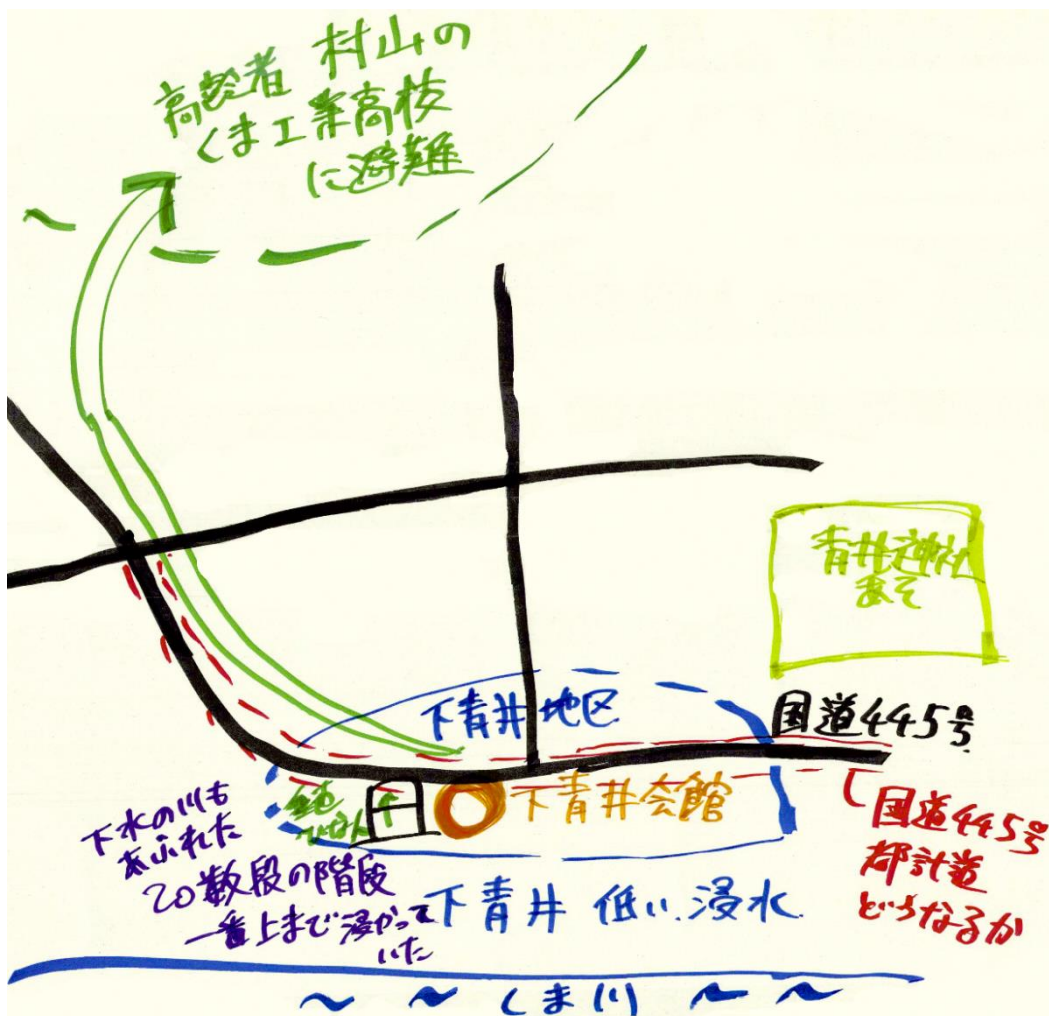
区分		みなさんの思い、意見の概要
生活再建	住宅	<ul style="list-style-type: none"> 公費解体して建て直しを検討しているが、以前あった建物仕様でないといけないと言われて困惑。水害対策で高床式にしたいのに。（みんなそう思っている） 自宅のリフォームに時間がかかる。ただ待つのみ。（業者少ない） “かさ上げ”するならするで早く方向付けしてほしい。住宅や店舗も再建準備できない。
観光 経済	観光まちづくり	<ul style="list-style-type: none"> 以前の、昔の魅力以上にしないと観光客は帰ってこない。 やっぱり青井地区では“観光”が第一ではないか。青井阿蘇神社と駅の間、門前町として整備、街灯で街を明るく、球磨川遊歩道までもとす。観光客が夜でも回遊できるように。※大正時代に門前町構想図面があったそう。 「人吉旅館」は文化財登録。ちゃんと後世まで守っていききたい。再建に向けて動いている。（災害ボランティア受け入れできなかったのも時間がかかる要因） 城址周辺を（大分県日田市）豆田地区みたいな雰囲気になりたい。高い建物はなるべく控えてもらい、古い街並みをつくりたい。 青井地区（神社）を復興させること。 （水害前からも）遊歩道の整備をお願いしていた。 （中青井）駅近所も浸かり驚いた。思ってもいなかった。JR肥薩線の早期復旧が大切ではないか。「MOZOCA」タウンをやっているが一時的。
	商店街	<ul style="list-style-type: none"> 上青井は西校区で唯一の商店がある地域。金物屋も移転し商店街がなくなる。過去いろんな職業の店が立ち並び人気だったが再建が厳しい。後継者もいれば借金して再建できるかもしれないが。 市の経済に関する考え方が不明で、どうしたらいいか悩んでいる。 郵便局の通り、地藏さんのところなど地盤が弱い。（両面の道路に高低差もある） （後継者問題も含めて）商店街の集約化で考えられないか。なりわい補助金なども活用して。
	球磨川と共存	<ul style="list-style-type: none"> 川とは共存関係。（堤防等で）市の全体が浸からないようにしろとは求めない。東北の防潮堤のように高くはならない。いいとは限らない。夏の時期は川風で涼しい。堤防高くなると街の魅力がなくなる。 駅や神社からの観光局の回遊性をどうするか考えないと。
球磨川 治水対策等	その他	<ul style="list-style-type: none"> 樋門のところに川に降りる階段を国交省は川幅狭くなるからとつくらなかった。親水空間をつくったがすぐ壊れた。鮎漁のための措置をお願いしたが、扉つくってできなくなった。
その他	他事例	<ul style="list-style-type: none"> 国の公共事業の失敗例を学んでは。（時間がかかり失敗した例を。西原村は地震被害で違う。福岡県朝倉市は）
	情報発信	<ul style="list-style-type: none"> （4月から赴任で来てSLが通ってた線路が錆びてて残念な気持ち、東北の人は高い防波堤はなかった方が良かったと言っている）熊本県立大学とリコーと観光地の写真や動画をつくり、PRする取り組みを始める。人吉市の人は心にダメージを受けて元気がないイメージ。他の地域の人や観光目的の人に、観光情報発信（SNS等）をしていくこと。大事だと思う。五木村ではドローン撮影をして世界に知ってもらおう取り組みをしている。
	災害ボランティアに対して	<ul style="list-style-type: none"> 災害ボランティアに来てもらって片付けしたが、いるもの、いないもの分別していたのにすべて捨てられた。考えものだ。
	次回日程	4月30日（金）10時～ 東西コミセン 26日は用事がある。

【青井地区（下青井町）】（1/2）

区分		みなさんの思い、意見の概要
避難対策	避難場所 道路	<ul style="list-style-type: none"> ・下青井町は土地が低く、2階の天井まで水が来たため向かいのホテルに避難した。命があって良かった。 ・自宅は平屋だったので、毎年避難覚悟で住んでいた。 ・下青井町は避難場所を町内会館にしていたが、天井まで水が来た。 →避難場所がなくなった。今後は幼稚園を避難場所に利用することになった。新たな避難路も必要。 ・自宅ベランダで8時間水だけ飲んで耐え、ラフティングボートに助けもらった。ベランダからは屋根の上に10数名乗っている光景が見えた。 ・今までは自宅の2階へ避難していたが、今回は他所へ避難した。 ・周りの建物の3、4階に避難した。 ・自家用車はなるべく高い所へ移動させていた。 ・道路が狭いため、自動車避難する人が集中して渋滞していた。 →逃げられない。逃げるための道路を整理しておく必要がある。
	避難誘導 要支援者対策	<ul style="list-style-type: none"> ・奥さんが高齢者見守り隊だったので、高齢者の家に避難を呼びかけに回っていた。逃げると答えた人が逃げ遅れて亡くなった。 ・近所に声かけをしていたが水が早く、自分が逃げ遅れて自宅で垂直避難した。 ・高齢者はまず下青井会館に集まり、そこから自動車で球磨工業高校へ避難するようにしていた。 ・市長の切迫した呼びかけの声が、避難行動を後押ししたように思う。 ・何回も（昭和40、47、60、令和2年の4回）水害にあっているが、今回は水の出が早かった。 ・ボランティアにかなり助けもらった。 ・ボランティアの話では、地震なら被災後も使える家財道具などがあるが、水害では何もかも使えなくなってしまう。 ・早めの避難が大事。
生業再建 住まい再建	住まい再建 生業再建 復興まちづくり	<ul style="list-style-type: none"> ・公費解体している所が多い。 ・嵩上げするのであれば、どれくらい上げればよいのか？情報がなく不明確だ。 ・災害住宅を訪問しているが、電化製品はあっても家具がないなどで、リフォームが済んでも住めない状況にある人がいる。 ・国道445号の拡幅計画がどうなっているのか。 →道路中心から7m控えて建築しなければならない。 →以前、費用対効果が悪いので取り止めになっている。現状を見て考えてほしい。 →今後どうなるのか、早く示してほしい。 ・国道445号の街灯整備を市に頼んでいる。 ・自宅は道路拡幅にかかっている。現在、公費解体中だが同じ所に住みたい。どんな建物なら建築可能か？ ・拡幅の寸法等を明確に示してほしい。 ・実家が下青井町にあり、土地は母親所有だが道路計画でその土地がどうなるのか？今後子供が相続することになるので、知っておきたい。

【青井地区（下青井町）】（2/2）

生業再建 住まい再建	地域コミュニ ティ 地区への思い	<ul style="list-style-type: none"> ・下青井町では県の指定を受け、『地域の縁がわ』事業（人吉市では下青井町と大柿町の2箇所）で200円ランチの提供などを去年の6月までしてきた。団結力があり、仲が良い。 ・下青井町は良い所で、長年住み慣れた土地だ。家を建て直して帰ってきたい。皆と一緒に住みたい。そう思うと体調も回復した。 ・下青井町に住む限りは、『水害』とは切り離すことはできない。念頭に置いて住むしかない。 ・2020年6月時点で下青井町には197世帯、397名が住んでいたが、今後は80~90名程度になると予想している。 →町内会の運営が懸念される。 ・町内活動の拠点である町内会館を早く復旧したい。今は町外に住んでいる人にも集ってもらいたい。しかし、生活再建が第一ではある。 ・下青井会館はボランティアが泥出ししてくれたので、昼間は使えるようになった（電気は来ていない）。 ・会館の修復は、まだスタートラインに立っていない。見積りが取れば、見通しがつく。 ・電化製品はNHKの『わかば基金』で揃える目途がつくが、肝心の電気工事費500万円のうち3/4は市の補助を待っている状態。
治水	治水	<ul style="list-style-type: none"> ・寺番館の前から越水していた。水の出方が早く、国道が川になった。 ・普段は何も流れていない溝から水が溢れてきた。いつもと違った。
その他	その他	<ul style="list-style-type: none"> ・屋根がついたままの家が流れてきた。
	次回日程	<ul style="list-style-type: none"> ・4月26日（夜）、4月28日（午前）、4月30日（午前）OK



【青井地区（駒井田町・城本町）】

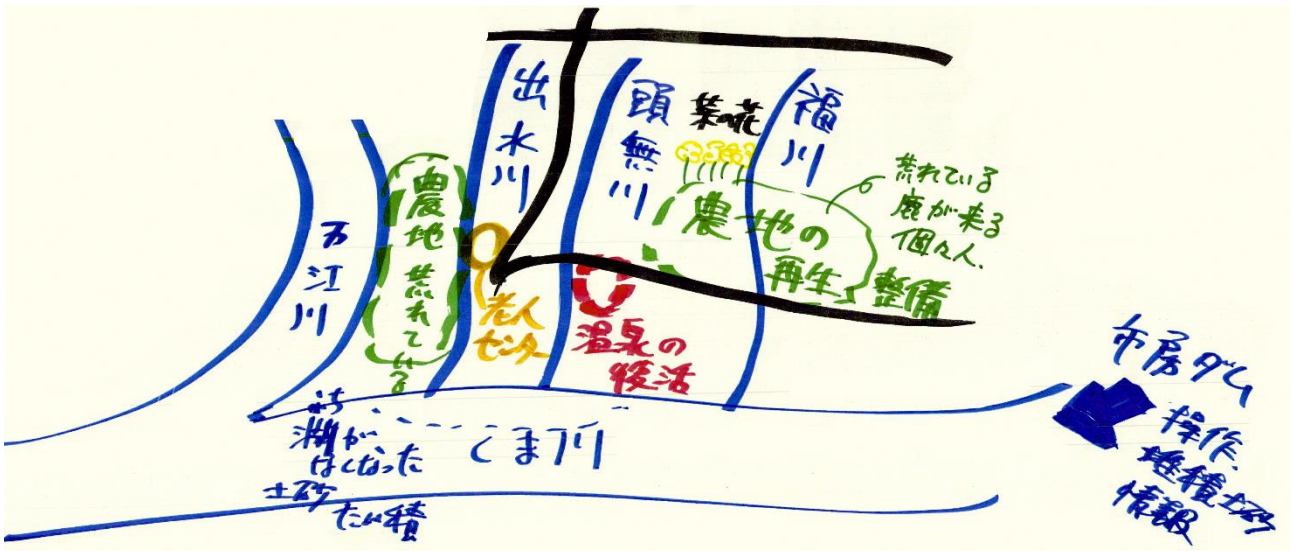
区分		みなさんの思い、意見の概要
避難対策	タイミング	<ul style="list-style-type: none"> • これまでは庭先までしか浸水していなかったため、今回は避難が遅れ、水圧で玄関のドアが開かなかった。 • 危なくなくても早めに逃げることが重要。 • 年配者は避難が早く、若者は自信があるのか避難が遅かった。 • 時間別に対策を考えることが必要である。
	情報伝達	<ul style="list-style-type: none"> • 雨音で無線が聞こえなかった。 →市内全域に防災ラジオを全戸配布する予定である。 • 声のトーンによっては、聞き取りにくいなどもあるため、男性ではなく、女性の声の方が良い。 • 球磨村の浸水状況等を人吉市にも流した方が良い。
	避難経路	<ul style="list-style-type: none"> • アンダーパスが浸水したことによって、避難路がなくなった。 →鉄道の再建とともに検討が必要である。
	要支援者対策 避難誘導	<ul style="list-style-type: none"> • 避難のためのマニュアルが必要。 • 年配者の方が逃げるときに、町内会役員や民生委員、消防団に頼ってしまう。若者を巻き込みが必要。 →消防団は、城本町にはなく、駒井田町・青井はあるが、6名しかいない。 • 近隣の平屋のお年寄りに声掛けをしたが、避難をしなかった。避難を拒否する人をどのように避難をさせるのが良いのか。
生活再建	住まい再建	<ul style="list-style-type: none"> • 現在、仮設住宅に住んでいるが、今後どうするかは、まちづくりの方針などで検討したい。 • 昔の家は、瓦などの重量があり、浮かないが、新しい家は軽量のため、水に浮いてしまう。 • 城本町の30世帯のうち、3世帯は地区外に移転した。 • 1階が商店で2階が自宅であり、再建後構造を変更しようとしたら、公費解体の対象外となった。
	くらし再建	<ul style="list-style-type: none"> • 生活再建には車の避難も重要である。 →20～30分程度で行ける車の避難場所が必要である。
治水	治水	<ul style="list-style-type: none"> • 前回の大規模水害の浸水深表示があり、それを基準としていたため、予想外であった。 • 山田川から水があふれるとは思わなかった。
その他	参加者	<ul style="list-style-type: none"> • 若者が参加できる工夫が必要である。 →女川町は、町長が若者の意見を聞きたいため、65歳以上の方は口を閉じてくださいと呼びかけ、若者の意見を多く取り入れた。堤防を作るより、避難の方法を検討し、海と生きるまちづくりをしている。 →まちなかでの若者のパワーを感じた。 • 土日休みでない方も多い。夜の時間帯が参加しやすいのではないかな。 • 企業等に社員の参加を呼びかけると若者の参加が増えるのではないかな。（社員の〇%程度参加など） • PTAは関心度も高いため、声掛けをしてはどうか。
	記憶・経験	<ul style="list-style-type: none"> • 災害に記憶と経験をどのように伝えていくかが重要である。
	次回日程	<ul style="list-style-type: none"> • 若い世代も参加できるように夜間での実施が良い。

【温泉下林地区（温泉町①）】（1/2）

区分		みなさんの思い、意見の概要
避難対策	避難誘導 要支援者対策	<ul style="list-style-type: none"> 命を守る避難を。命があれば何とかなる。
生活再建	住まい再建 生業再建 復興まちづくり	<ul style="list-style-type: none"> 行政の様々な手続きの締切りや、免除期間の打切りが早い。 →公費解体、水道料金の免除等（被災家屋を洗うための水使用と仮設での水使用とで、二重払いをしている）。 温泉の復活を。『自然』と『温泉』を活かした観光まちづくり。 温泉町に骨を埋める気持ちでいる。現地でリフォームを考えている。 温泉町に残るか悩んでいる。考えることに疲れた。 仮設住宅入居の期限が2年間なので、残り1年数箇月でゴミ出しやリフォームができるのか。このままでは自費負担になるだろう。
	農地の再生	<ul style="list-style-type: none"> 高齢になり農地を整備できなくなっており、このままでは荒地化する。 家財道具なども残っている所もあり、市に取り除いてもらう。 現状はゴミが多過ぎて、機械を入れられない。 →今年の稲作には間に合わない。 農地の泥の除去は、国の補助が1反あたり97%程度あるので、個人負担は6~7千円程度でできる。 稲作が終われば何もしていないので、菜の花やレンゲを植えれば観光面でも良い。 荒地を残すのではなく、観光面からも手を入れる必要がある。 耕作を続けられない土地が少しでもあると、そこに鹿が来たり、野生動物が棲みつき、更に荒れてしまう。 今では、鹿は田んぼだけでなく家庭菜園も荒らしている。 温泉町の農地は古く昔からの田んぼなので、1枚が1畝で道路も狭い。 水路の問題もあり、畦道もわからなくなっている所もある。
	地域コミュニティ 地区への思い	<ul style="list-style-type: none"> 老人福祉センター、集会所の復旧。 →現在、温泉町では老人福祉センターが集会所になっている。早く集会所を復旧したい。 温泉町のシンボルである老人福祉センターをどうするのか、市から回答をもらっていない。 you meまーとに出されている小学生のメッセージを見ると、子供たちが20歳になっても残れるようなまちづくりをしなければならないと思う。 横のつながりが大事。誰が助けるかなど話し合う必要がある。 →温泉町では新しい町内会長のもとで、新たな連絡網を作成中。 仮設住宅に入居している高齢一人暮らし者の不安を取り除かなければならない。

【温泉下林地区（温泉町①）】（2/2）

治水	治水	<ul style="list-style-type: none"> ・次の出水期までに色々な情報（持っている数字）の公表、伝達をしてほしい。 →発電のために最低限必要な水量等。 ・線状降水帯の発生時には、市房ダムを空にしておいてほしい。 ・温泉町は、昔は水に浸からなかったが、市房ダムができてから浸かるようになった。 ・40年前の洪水や今回の洪水は『人災』だと思う。 ・市房ダムの定期的な排砂で、球磨川に土砂が堆積している。自然のままの川が良い。四万十川が清流であるのはダムがないからである。 ・川辺川にダムができると、放流時には八代市が浸かるようになるのではないか。 ・福川の樋門は最後まで閉められない（閉めてしまうと内水氾濫する）。 →樋門管理の再考を。 ・排水ポンプの能力アップを。 ・福川の堤防は球磨川の堤防よりも低い。 →球磨川の堤防高に合わせる必要がある。 ・福川から頭無川にバイパスを設ける必要がある。 ・昔の球磨川には『淵』があった。定期的な浚渫を。
治山	治山	<ul style="list-style-type: none"> ・戦後のスギやヒノキの植林で、山の保水力が低下している。雑木林は落ち葉が保水してくれるが、スギやヒノキは落ち葉が少ない。
その他	その他	<ul style="list-style-type: none"> ・所有者不明の持ち物が家と家の間などに残っている。景観上悪く、他人が触れないので、公共で管理してほしい。



【温泉下林地区（温泉町②）】

区分		みなさんの思い、意見の概要
避難対策	情報伝達	<ul style="list-style-type: none"> 市からの災害情報が出るのが遅かった。 市から避難指示が出ていないので、避難しないという方もいた。
	避難誘導	<ul style="list-style-type: none"> これまでは、民生委員がお年寄りと一緒に避難していたが、今次豪雨では、地域にも避難誘導の協力を求めて避難した。 →水害前に薬や着替えなども事前に呼びかけた。 「逃げましょう」という地域での声かけが人命を救ったと思う。 避難者が少なかった。また、タイミングが遅れた方もいる。 泥で歩けないという課題もあった。
	避難場所	<ul style="list-style-type: none"> 今次豪雨では旅館に避難した。 スポーツパレスは浸水したため、今後は第二中学校に避難する。
生活再建	住まい再建	<ul style="list-style-type: none"> 水害に備えて、高床式住宅にしていたが、予想以上の浸水であった。 →周囲の建物は全壊判定であったが、家財等に被害があったのに高床にしていたことで半壊判定であった。 避難のタイミングが早く、浸水したところを見なかったから現地再建をしたいという思いもあるかもしれない。体験していたら、怖くて現地に住もうと思わないかもしれない。 地域のつながり、コミュニティが好きで、地域での再建を考えたいが、計画が見えないと再建しづらい。2～3年後の住宅再建になる可能性がある。 国、県、市の生活再建支援の内容を教えてください。
	施設の再建	<ul style="list-style-type: none"> 老人福祉センターの早期復活を地域は望んでいる。 →どのような経緯で移転したのか。市から説明してほしい。 →掘っ立て小屋でも良いので、再建したい。 魅力ある温泉町にしたい。住宅の再建ではなく、同時に進行してほしい。
	プロセス	<ul style="list-style-type: none"> 復興に向けて勉強会をしたうえで、何をすべきか明確にし、計画を作っていくたい。
	コミュニティ	<ul style="list-style-type: none"> 被災前まで90世帯いたが、現在は20世帯のみになっている。コミュニティが崩壊してしまうのを懸念している。 →孤独感を感じた。 →町内会の負担金の関係もある。町内会の合併も考える必要があるのか。 →新たな町内会の体制で、みんなで力を合わせて、力を合わせて安心・安全なまちへ復興がしたい。 →地域にいない人たちにどのように情報を流すかが重要な課題である。
	農地	<ul style="list-style-type: none"> 担い手がいないと小動物の住処になってしまう。再び人が住めるようにするには早めに整備すべきではないか。
治水	治水	<ul style="list-style-type: none"> ダムに関する不安がある。どのように対応したのか、今後どのように対応するのか。
その他	復旧	<ul style="list-style-type: none"> 木などのがれきを撤去してほしい。 →市にも要望したが、個人ではどうしようもない。 夜は暗い。街灯が欲しい。
	次回日程・場所	<ul style="list-style-type: none"> 個人で経営している公文の教室で実施することで、地域内を見ながら議論ができ、また、参加者も増えるのではないか。 4/29(祝)am

【温泉下林地区（下林町・中林町）】

区分		みなさんの思い、意見の概要
避難対策	避難路・避難場所	<ul style="list-style-type: none"> ・3月にハザードマップが配布されたが、ほとんど住む場所がない状態である。 ・中林はスポーツパレスが避難所だったが、二中になった。スポーツパレスは2階に上がらなければならないので車椅子などでは難しい。また駐車場の車が浸かってしまう。 ・下林・中林から村山公園は遠くないが、みんながそこに向かったので車が渋滞してしまった。 ・万江川の橋を渡って避難するのは難しい。
	要支援者対策 避難誘導	<ul style="list-style-type: none"> ・一人暮らしの人には、民生委員が各戸を回って避難誘導できた。
生活再建	住まい再建	<ul style="list-style-type: none"> ・下林町の自宅の再建をどうするかすごく迷っている。帰ってくるのは怖い、移転先の候補は周りが全て田んぼなので暮らしていけるか不安である。 ・下林町では4名がなくなり、6軒が解体した。
	り災の基準	<ul style="list-style-type: none"> ・半壊でリフォームした。半壊と全壊では支援が大きく違うが、浸水による家財の被害は両方とも買い直さなければならないので同じだ。水害に対応した「り災証明」の基準をつくるべきだ。
	復興まちづくりを勉強したい	<ul style="list-style-type: none"> ・西原村の事例をテレビで見たが、公費で代替地に行けるような制度もあるようだ。どんな事業があり、どんな内容なのか、費用負担がどのくらいなのか、事例を知りたい。 ・みんな、費用はかけられないと思うので、どんな支援策があるのかを知りたい。 ・少しずつ再建が進んでいるが、水害保険をかけて再建していくことが重要だ。
地域コミュニティの再生・維持	温泉町老人福祉センターの復活	<ul style="list-style-type: none"> ・温泉町の老人福祉センターを復活してほしい。建物は被災したが、源泉は生きている。S40に被災したときも復活させたので、公的に温泉を確保してほしい。
	温泉と農業の地区の特徴を活かした復興	<ul style="list-style-type: none"> ・人吉の温泉の発祥の地であり、しらすぎ、たから湯、翠嵐荘など多くの温泉がある。温泉を焼酎に使っている酒蔵もある。温泉を活かした復興が必要だ。 ・温泉町は最近住宅が増えてきて良い方向に行くと思っていたが、この水害で将来が心配である。
	地区の祭りの復活	<ul style="list-style-type: none"> ・地域には「薬師堂、馬頭観音、ようはい」など、昔からの祭りがあり、それぞれの町内でごとに、重ならないように様々な祭りをまつりをやってきた。災害後は、コロナの関係もあり、行事に取り組みなくなっているが、それぞれでやっていきたい。仮設にいる人も祭りには参加してもらえれば、元気にもなる。
	公民館の再生	<ul style="list-style-type: none"> ・公民館の再建に協力してくれない人がいる。最近自己都合を優先する人が増え、将来が少し心配だ。こういうときはみんなで協力すべきだ。 ・中林の公民館は保険に入っていた、また被害は少なかったため保険金は町会で積み立てた。 ・下林の公民館は補助金で修復できた。
治水	治水	<ul style="list-style-type: none"> ・下林では、親の代からは旧219号までは浸かるが、その上は大丈夫と言われていた。しかし、今回はJRを超えて水が来た。 ・中林町は浸水しないだろうという過信があった。温泉・下林のようなひどい状況ではないが、出水川などへの逆流により地区の1/3が浸かってしまった。 ・川道掘削をすると聞いているが早く進めてほしい。 ・万江川は上から水の水と、球磨川の本流から逆流してきたのと、上と下から溢れた。
	市房ダムの放流	<ul style="list-style-type: none"> ・市房ダムの放流に関して不信感が拭えない。事前にきちんと情報をだしてもらいたい。